

平成22年度事業報告書

1 多文化共生社会の実現

(1) 外国人児童・生徒への学習支援

① 外国人児童・生徒のための学習支援地域講座の実施

【実施状況】

ア 外国人児童・生徒のための日本語による学習支援地域講座の実施

増加傾向にある外国にルーツを持つ児童・生徒に対して、教科学習で用いられる日本語力（学習言語）の習得にかかるハンディをサポートするために、ボランティア団体等との共催で日本語を用いた教科学習支援教室を実施した。

- ・対 象 県内で教科学習を支援する教室を開催するボランティア団体・グループ等。
- ・内 容 学習支援講座開設会場の借上費等を協会が負担

イ 外国人児童・生徒のための母語による学習支援地域講座の実施

来日間もない等の理由から日本語による教科理解が困難な児童・生徒に対して、ボランティア団体等との共催により外国人児童・生徒自らが母国で培ってきた母語力を活用する学習支援教室を実施した。

- ・対 象 県内で母語を活かした教科学習を支援する教室を開催するボランティア団体・グループ等
- ・内 容 学習支援講座開設会場の借上費、教材購入費等を協会が負担

ウ 外国人児童・生徒のための母語教室支援モデル事業 【新規】

外国人児童・生徒の生活環境における母語学習の重要性が増してきたことから、地域で開催する母語教室に支援を行うモデル事業を実施した。

- ・対 象 県内在住の外国人児童・生徒を対象に、母語教育を行う2団体
- ・内 容 母語教室の教材購入費、児童生徒の送迎費等を協会が負担
- ・時 期 平成22年9月～平成23年3月

【事業評価】

実 績	ア)日本語講座 21講座 (計画 21講座 前年度実績 17講座) イ)母語講座 10講座 (計画 9講座 前年度実績 9講座) ウ)モデル事業 2講座 (計画 2講座 中国語講座(宝塚市内)、ポルトガル語講座送迎(神戸市内))
評 価	いずれの講座も前年度実績から増え、新しい講座支援事業の着実な実施で外国人児童・生徒の学習支援に役立っている。なお、都市部での講座の実施が多く、外国人児童生徒数が少ない市町や中山間部への支援の拡充が必要である。

② 外国人児童・生徒への日本語・学習支援者の育成

【実施状況】

ア 日本語・学習支援者養成講座の実施

外国人児童・生徒向け日本語教授法の提供や実践的課題の解決を目指した指導者養成研修を実施した。

- ・時 期 平成23年1月22日、29日、2月5日（3日間）
- ・場 所 国際健康開発センター交流ホール

イ 日本語・学習支援アドバイザーの派遣

外国人児童・生徒への日本語講座を開講する団体にアドバイザーを派遣し、指導に関する相談に対応した。

- ・派遣先 県内で外国人児童・生徒に対する日本語・学習支援を行っているボランティア団体3団体（神戸市2団体及び南あわじ市）
- ・内容 日本語・学習支援現場での観察・指導、教材・カリキュラムや教授法等にかかる技術的な助言等

【事業評価】

実績	ア)養成講座 125名受講（定員65名 前年度実績177名受講） イ)アドバイザー派遣 3講座109名受講（計画3講座 前年度実績2講座33名受講）
評価	養成講座は定員の倍に達する受講者が、またアドバイザー派遣講座にも前年を上回る参加があり、同事業のニーズの高さがうかがえる。なお、支援者の高齢化が課題となっている地域が多く、今後は若手支援者の育成を図っていく。

③ 外国人児童・生徒への未来応援教室の開催

【実施状況】

外国人児童・生徒と大学や社会等で活躍する外国人県民（ロールモデル）が身近に接する機会（「未来応援教室」）を設け、外国人児童・生徒が将来の目標や精神的な励みを得ることにより学習に対するモチベーションを高める教室の開催を支援した。

- ・内容 県内で外国人の子どもを対象に日本語、学習教室等を開催している団体に、未来応援教室の開催に要する経費（謝金、旅費等）を助成（5,000円/回）
- ・開催場所 神戸市内（4回）、芦屋市内（1回）

【事業評価】

実績	5回参加者数169名（計画8回 前年度実績6回 213名）
評価	県内で学習支援を行っている25団体が概ね3年に1回、未来応援教室を実施できるよう8回を計画したが、団体の受入体制が整わず、今回は5回となった。本事業は外国人児童生徒が将来の目的を持ち、実現のための具体的な勉強方法を学ぶ貴重な機会であるため、団体への一層の働きかけが必要である。

④ 母語教育支援のための教材づくり

【実施状況】

母語教育支援のさらなる充実を図るため、県内居住者が多く母語教室も開催されているベトナム語、ポルトガル語、スペイン語の教材づくりを行った。

- ・ベトナム語：中学、高校生向けベトナムの民話読本の作成
- ・ポルトガル語：単語絵カード、ワークシート、問題集の作成
- ・スペイン語：単語絵カード、ワークシートの作成



【事業評価】

実績	ベトナム語読本1,000部（計画1,000部 前年度実績200部） ポルトガル語単語絵カード2,000語（計画400語 前年度実績1,575語）、スペイン語単語絵カード1,535語（新規）
評価	新たにスペイン語を加え3言語の教材を作成。教材は外国人コミュニティや地域の母語学習支援教室等で活用され、子ども達のアイデンティティの確立や家族間のコミュニケーションの向上の一助となった。

⑤ 外国人児童教育学習資材・図書充実事業

【新規】

【実施状況】

外国人児童の安定した教育・学習環境を形成するため、地域の外国人コミュニティや母語教育支援団体等に対し、日本語・母語の教育資材・図書の提供を行った。

【事業評価】

実績	外国人コミュニティ3団体、日本語教育支援団体17団体、母語教育支援団体8団体に対し、総計1,858冊を提供
評価	外国人児童生徒にとって理解が難しい国語、社会等の読本や学習図鑑、母語日本語の辞書等を揃える事ができ、彼らの日本語・母語・教科学習への取り組みが進み、学力・能力向上に役立った。

⑥ 外国人学校交流の推進

【実施状況】

自然とのふれあいや地域住民との交流を行うことにより、地域社会への理解と、ひいては、兵庫県への理解を深めることを目的に外国人学校が実施する自然学校等の事業に対し助成を行った。

- ・助成対象 外国人学校
- ・助成金額 1校当たり428千円を限度として助成対象経費の1/3を助成

【事業評価】

実績	8校12プログラム（前年度実績8校12プログラム）
評価	外国人学校に通う児童生徒にとって、普段訪れる機会の少ない自然豊かな中山間部での野外活動の体験や地域の人との交流を通して豊かな心を醸成し、兵庫県の理解を深める貴重な機会となった。

⑦ 母語教育支援研修会の開催

【新規】

【実施状況】

母語教育は、外国人児童生徒にとりアイデンティティの確立や精神的安定が得られるなど大きな効果があるとされていることから、母語教育への理解を深める研修会を開催した。

- ・対象者：母語教育関係者
- ・時期：平成23年2月27日
- ・場所：西宮市



【事業評価】

実績	112名参加（定員100名）
評価	母語教育をテーマに初めて研修会を開催したが、外国人児童生徒に関係する教員、支援者、研究者、学生等幅広い層の受講者が県内各地から集まり、課題共有ができ有意義な研修となった。母語支援の必要性については、まだ十分に理解されていないため、今後より充実した内容の研修会を継続して実施する必要がある。

⑧ 就学前外国人児童支援を考える研修会の開催

【新規】

【実施状況】

就学前の外国人児童の健やかな成長を支える支援を行うため、日本語習得支援や入りの留意点等について研修会を行った。

- ・対象者：外国人児童を受け入れている県内保育所・幼稚園の園長や保育士・教諭等
- ・時期：平成23年2月22日
- ・場所：神戸市

【事業評価】

実績	73名参加（定員80名）
評価	就学前児童支援をテーマに初めて研修会を開催したが、保育園・幼稚園関係者、小学校教員、支援者、研究者等幅広い層の受講者が県内各地から集まった。特に、この種の研修機会がなく、手探りで外国人児童を受け入れていた幼・保教職員の反響と期待が大きく、今後順次他地域で開催する必要がある。

(2) 日本語教育の推進

① 日本語教育指導員の配置

【実施状況】

外国人県民が安心して暮らしていくためには、日本語の習得が不可欠であることから、当協会に日本語教育指導員などを配置し、日本語教室の運営、ボランティアの育成・指導など日本語教育支援を行った。また、新たに地域日本語推進員を配置し、地域における日本語・母語支援員の活動を支援した。

【事業評価】

実績	日本語教育指導員1名、日本語教育補助員1名（前年度実績同左） 地域日本語推進員1名（新規：平成22年11月～）
評価	日本語教育専門家を配置し、外国人県民に対する日本語学習機会の提供や地域における支援者の育成・啓発を推進できた。

② 外国人県民日本語講座の開催

【実施状況】

県内在住外国人の日本語能力の向上を図るため、年間を通じて日本語が学べる講座を開設した。

- ・内容 8クラス（初級(4)、初中級(2)、中級(1)、中上級(1)）
- ・時期 第1期 5月10日～ 6月30日
第2期 9月27日～12月 8日
第3期 1月17日～ 3月 9日
- ・回数 各クラス 週2日、年50回、延100時間
中上級クラスは週1日、年26回、延52時間
キャッチアップクラスは第2・3期の週2日、年35回、延70時間



【事業評価】

実績	受講者数564名 ※詳細は次項のとおり (定員：各クラス20名)
評価	各クラスとも定員を上回り、受講者総数も大幅増となった。来日間もない初心者から、流暢に話せる外資系のビジネスマンなど、多様な受講者の日本語学習ニーズに対応した講座が開催できた。

平成22年度受講者

期別	クラス別人数									21年度
	キャッチアップ*	初級1	初級2	初級3	初中級1	初中級2	中級	中上級	計	計
1期	—	26	25	27	26	27	25	20	176	153
2期	23	24	26	27	28	26	26	22	202	178
3期	22	29	27	22	23	22	20	21	186	174
合計	45	79	78	76	77	75	71	63	564	505

③ 夏期集中日本語講座の開催

【実施状況】

県内在住外国人の日本語能力の向上のため、夏休み期間を利用した短期集中講座を開設した。

- ・内 容 6クラス（初級(3)、中級(2)、中上級(1)）
- ・時 期 7月26日～8月12日（月～金 9：00～12：00）
- ・回 数 各クラス 1回3時間、14日間、延42時間

【事業評価】

実 績	受講者数 136名 ※詳細は下表のとおり (定員：各クラス 20名)
評 価	夏休み期間を利用した短期集中型の日本語能力向上のための講座を開催することにより、主婦層 51名、留学生等 28名の参加があり、多様なニーズに対応した講座が開催できた。

平成22年度受講者

クラス別人数							21年度
初級A	初級B	初級C	中級A	中級B	中上級	計	計
24	20	26	22	21	23	136	139

④ 日本語地域講座の推進

【実施状況】

県内におけるボランティア等による外国人に対する日本語学習支援の取り組みを支援・促進するため、ボランティア団体等との共催で日本語講座を開設し、その会場費等を負担した。

- ・対 象 県内で基本的な日常日本語会話学習を必要とする外国人に対する日本語講座等を開催するボランティア団体・グループ等
- ・内 容 日本語講座開設会場の借上げ費等を協会が負担

【事業評価】

実 績	講座数 40講座、延 23,440名受講 (計画 38講座 前年度実績 35講座、延 23,369名受講)
評 価	平成10年度より地域における日本語教室の開催を支援してきたが、生活面や精神面のサポート等新たな機能を加えた「居場所づくり事業」として新たに展開していくため、平成22年度で終了した。

⑤ 日本語学習支援ボランティアの育成

【実施状況】

ア 日本語学習支援ボランティア養成講座の実施

外国人県民が増加する地域で日本語教育の必要性の啓発を行うとともに、日本語教授法の指導等を行い、日本語教育に携わるボランティアの養成を行った。

- ・時 期 平成22年5月22日～6月26日（毎週土曜日）
1日5時間、6回講座、計30時間
- ・場 所 朝来市 ※他に受託講座として明石市で実施（受講者30名）
- ・受講者 17名

イ 日本語学習支援ボランティア・ブラッシュアップ研修

日本語学習支援ボランティア養成講座等を受講し、外国人に対する日本語学習支援を行っている支援者を対象に、技術的な問題解決のための指導を行った。

- ・派遣先 県内で活動する日本語学習支援ボランティア団体
2団体（たつの市、淡路市）計5回派遣
- ・受講者 計77名

ウ 日本語学習支援アドバイザーの派遣

日本語学習のニーズの多様化に伴い活発化する日本語学習支援団体の取り組みを支援するため、協会登録日本語教師をアドバイザーとして派遣した。

- ・派遣先 県内で活動する日本語学習支援ボランティア団体 11団体
（神戸市：4団体、伊丹市、宝塚市、芦屋市、明石市、三田市、豊岡市、播磨町）
計16回派遣・1団体あたり4時間
- ・受講者 計287名

【事業評価】

実績	支援団体数 15 団体、計 411 名受講 （前年度実績 12 団体、計 365 名受講）
評価	前年度より派遣団体数、受講者合計も増えており、外国人県民への日本語学習支援ボランティアの拡大と資質向上に貢献した。今後は、日本語講座未実施市町（県内 9 市町）に対し、外国人県民に対する日本語学習機会の提供について理解を促す一層の努力が必要である。

⑥ 日本語教育実践講座の実施

【実施状況】

県内の日本語教師養成のため日本語教育専修の学生等に日本語教育実践の場を提供した。

- ・時 期 7月26日～8月12日 ※夏期集中日本語講座と同時開講
- ・時間数 1日3.5～4.5時間、計70時間

【事業評価】

実績	受講者数 23 名（前年度実績 12 名）
評価	日本語教育専攻の大学生または大学院生が、日本語教育現場を見学し、授業終了後に教師から直接解説、評価を聞くことで、実践的な指導方法を学ぶ場となった。

⑦ 日本語教育研修会の開催

【実施状況】

地域の特性に応じた外国人に対する日本語教育推進体制の整備を図るため、県内日本語支援団体、NGO、日本語教師等と連携しながら、日本語教育の問題点の理解を深めるための研修会を開催した。

- ・時 期 平成23年2月19日
- ・場 所 国際健康開発センター交流ホール
- ・テ ー マ 日本語学習支援のための地域・企業との連携の現状と展望

【事業評価】

実 績	参加者数 50名 (前年度実績 34名)
評 価	県内企業で働く外国人労働者や工場、漁港で働く外国人研修生に対する日本語支援の実践報告があり、企業等との連携の必要性を確認する研修会となった。

(3) 外国人県民への生活支援

① 外国人県民インフォメーションセンターの運営

【実施状況】

ア 外国人県民生活相談の実施

出入国、婚姻、医療、労働、教育など外国人県民の日常生活の様々な相談に応じるため、4言語による相談員及び専門相談員による生活相談を実施した。

- ・人 員 相談員5名(英語、中国語、スペイン語2名、ポルトガル語)
※弁護士による入国管理等法律相談を実施

＜対前年度比＞

・内 容 別	暮らしに関する相談	627件	18.0% (△7.5%)
	出入国に関する相談	331件	9.5% (△25.8%)
	労働に関する相談	320件	9.2% (△33.9%)
	医療に関する相談	300件	8.6% (△34.8%)
	その他婚姻に関する相談等	1,896件	54.7% (△5.6%)
・言 語 別	スペイン語	1,472件	42.4% (△24.6%)
	日本語	592件	17.0% (+0.5%)
	中国語	560件	16.1% (△2.4%)
	ポルトガル語	500件	14.4% (△28.4%)
	英 語	350件	10.1% (+32.6%)

【事業評価】

実 績	相談件数 3,474件 (前年度 4,076件)
評 価	全相談件数では、前年度比△14.8%。主な要因としては、景気低迷の影響で雇用が減り、ブラジル人などが帰国したことによる外国人登録者数の減少が影響したものと思われる。

イ FM放送による県政・生活情報の提供

FM COCOLO (関西インターメディア㈱) を活用し、県政情報や外国人県民が生活していく上で必要な情報を提供するFM放送を実施した。

放送局	放送日時	放送言語
FM COCOLO (76.5MHz)	毎週火曜～金曜日 20:40～2分30秒	英語、中国語、スペイン語 ポルトガル語

【事業評価】

実績	放送項目及び回数：52項目・207回（前年度12項目・52回）
評価	放送項目等を大幅に増やすとともに、インターネットでの同時配信や過去2週間分の放送を聴取可能とするなど、県政情報、生活情報の発信力を強化した。東日本大震災関連では、兵庫県営住宅の提供情報や被爆に関する相談窓口の案内など、多言語による貴重な支援情報を発信した。

ウ 相談員の資質の向上

外国人県民の生活相談を担当している行政（GO）及びNGOの相談員の資質の向上及び情報交換を図るため、定期にGONGO相談員会議を開催した。

- ・開催日 原則奇数月第2木曜日
- ・開催場所（財）神戸国際協力交流センター
- ・参加団体 市国際交流協会・外国人相談担当課、アジア福祉教育財団難民事業本部関西支部、多文化共生センターひょうご、NGO神戸外国人救援ネット、神戸定住外国人支援センター、NGOベトナムinKOBE等

エ ネットワーク推進会議の開催

外国人県民の日本での生活に密接な関係のある機関相互の協力体制を強化し、生活相談等の円滑な実施を図るため、ネットワーク推進会議を開催した。

- ・開催日 平成22年12月10日
- ・開催場所 国際健康開発センター 3階 交流ホール
- ・参加機関 兵庫県弁護士会、神戸公共職業安定所、子ども多文化共生センター、兵庫労働局、兵庫県警察本部、市町国際交流協会・外国人相談担当課、NGO神戸外国人救援ネット等

② 市町・NGOと連携した外国人県民相談活動の実施

【実施状況】

夜間、休日等の相談に応じるため、NGOが行う外国人県民相談活動等の費用の一部を支援した。

ア 外国人県民相談事業

a 実施団体

- (a) NGO神戸外国人救援ネット
（英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・タガログ語）
- (b) 特定非営利活動法人篠山国際理解センター
（英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・タガログ語）
- (c) ひめじ発世界（英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語）

b 相談件数 412件（21年度 452件）

- (a) NGO神戸外国人救援ネット 114件
- (b) 特定非営利活動法人篠山国際理解センター 131件
- (c) ひめじ発世界 167件

c 相談内訳

(a) 内容別

順位	内容	件数	%	H21件数	H21順位
1	教育	66	16.0%	55	3
2	出入国	63	15.3%	66	1
3	婚姻	55	10.7%	33	6
4	くらし	39	9.5%	28	7
5	医療	31	7.5%	57	2

6	就職	27	6.6%	18	10
7	労働	21	5.1%	22	9
—	その他	110	26.7%	161	—
—	合計	412	100.0%	452	—

(b) 言語別

順位	言語	件数	%	H21件数	H21順位
1	ポルトガル語	109	26.5%	151	1
2	日本語	90	21.8%	110	2
3	中国語	79	19.2%	45	4
4	スペイン語	56	13.6%	76	3
5	タガログ語	36	8.7%	26	6
6	英語	34	8.3%	34	5
7	ベトナム語	8	1.9%	9	7
8	その他	0	0.0%	1	8
—	合計	412	100.0%	452	—

イ 外国人県民巡回相談事業

(英語・中国語・スペイン語・ポルトガル語・ベトナム語・タガログ語・インドネシア語)

- a 実施団体 NGO神戸外国人救援ネット
- b 実施時期 平成22年10月、11月、12月（全3回）
- c 実施場所 三田市、豊岡市、南あわじ市
- d 主な内容 労働（4）、出入国（2）、社会保障（2）、教育（2）、日本語学習（2件）、医療（2件）、就職（1件）等

【事業評価】

実績	外国人県民相談件数 412件（前年度実績 452件） 巡回相談件数 17件（前年度実績 45件）
評価	巡回相談については、実施日を開催市の国際交流イベントと同日開催し、各市担当課と連携実施してきたが、相談実績が少ないため、外国人県民相談で対応することとし、事業終了とした。

③ 多言語生活ガイドホームページの運営

【実施状況】

外国人県民が必要とする生活情報を、ホームページで多言語（10言語）により情報提供した。

【事業評価】

実績	多言語による情報提供（日本語、英語、中国語、朝鮮・韓国語、ポルトガル語、スペイン語、ベトナム語、タガログ語、インドネシア語、タイ語）
評価	外国人県民がよりアクセスしやすいホームページにするため、情報更新の回数を上げ、画面をより見やすく改良する事が今後の課題である。

④ 外国人県民生活サポート活動の支援

【実施状況】

生活相談や情報提供などの生活支援活動、子どもに対する母語教室の開催や母語教室に通う子どもの送迎を行う外国人コミュニティ団体の活動を支援した。

- ・対象団体 NGOベトナム in KOBE
関西ブラジル人コミュニティ
ひょうごラテンコミュニティ

【事業評価】

実績	母語教室・送迎：ベトナム語、ポルトガル語、スペイン語 生活相談：ベトナム語、スペイン語（病院への同行通訳や書類等の翻訳含む） 情報誌発行：ベトナム語、ポルトガル語、スペイン語
評価	親子関係や母語の継承など、同じ文化、価値観を共有する外国人同士であるからこそ対応できる相談や、母国の祭り等のイベントをコミュニティ内で行うことにより、同郷外国人の心の拠り所が形成される支援の効果をあげた。

⑤ 多文化共生を考える研修会の開催

【記念】

【実施状況】

外国人県民と接する機会の多い行政職員、教員、日本語教師、ボランティア等が、多文化共生について理解を深めるための研修会をNGOと協力し開催した。

- ・時期 平成22年8月18日、20日、23日、25日、27日
- ・場所 国際健康開発センター、海外移住と文化の交流センター、宝塚市男女共同参画センター

【事業評価】

実績	参加人数 312名（前年度実績 204名）
評価	地域の日本語教室ボランティアや外国人県民支援者、市町国際交流・生活福祉関係者や教育関係者等多様な参加者が集まり、移民政策や教育等幅広い内容に参加者評価も高かった。今後広報を工夫する等し、新規参加者を増やす事が課題である。

⑥ 医療通訳等を考えるセミナーの開催

【新規】

【実施状況】

医療通訳制度を含む外国人の医療問題について関係者が共に学び、理解を深めるセミナーをNGOと協働して開催することにより、外国人県民がより安心して医療を受けることができる環境づくりを進めた。

- ・時期：平成22年3月26日

【事業評価】

実績	参加者数 72名
評価	医師、看護師、医療通訳者、病院通訳ボランティア、市町国際交流関係者、研究者、学生等幅広い参加者が共に学び、ワークショップを通じて課題共有することができた。今後、更に充実した内容により関係者をより広く集め、参加者間のネットワークを築くことができる研修会の実施が課題である。

⑦ 外国人のための就職支援講座の開催

【新規】

【実施状況】

日本語能力や日本の雇用慣行への理解不足などの理由により、就職が厳しい状況にある定住外国人を対象として履歴書の書き方や面接の受け方などの就職に最低限必要な知識等の習得を目指す講座をハローワークの協力を得て開催した。

- ・ 対象者：日本での就職を希望する外国人県民

【事業評価】

実績	姫路会場（9月）18名受講 神戸会場（10月）26名受講
評価	就職に役立つ日本語講座の他、履歴書の書き方、面接練習をマンツーマンで行い受講者から高い評価を得たが、講座の主対象であったブラジル系求職者が多く帰国したため、事業終了した。

2 交流人口の拡大

(1) 国際交流の推進

① ひょうご国際プラザの管理・運営

【実施状況】

国際情報センターにおける各種国際関係情報の提供やNGO/NPOなど民間団体と連携したパネル展の開催など国際交流等の場として設置している「ひょうご国際プラザ」を管理・運営した。



【事業評価】

実績	<table border="1"> <thead> <tr> <th>施設名</th> <th>22年度</th> <th>21年度</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>ア 国際情報センター [利用者数] (一日平均)</td> <td>46,615名 (161.9名)</td> <td>40,927名 (144.6名)</td> </tr> <tr> <td>(ア) マルチメディアライブラリー [インターネット利用者数(延べ)]</td> <td>7,505名</td> <td>9,744名</td> </tr> <tr> <td>(イ) テレビ・ビデオ</td> <td>165名</td> <td>233名</td> </tr> <tr> <td>(ウ) 図書資料コーナー [貸し出し図書数(延べ)]</td> <td>5,157冊</td> <td>6,208冊</td> </tr> <tr> <td>イ 活動支援室 [貸しロッカー利用団体数] [レターケース利用団体数] [共用部分利用団体数] [共用部分利用時間]</td> <td>14団体 15団体 109団体 延 313.5時間</td> <td>13団体 13団体 154団体 延613.時間</td> </tr> <tr> <td>ウ 交流ギャラリー [年間稼働率] [利用件数]</td> <td>89.8% 30件</td> <td>89.7% 12件</td> </tr> </tbody> </table>	施設名	22年度	21年度	ア 国際情報センター [利用者数] (一日平均)	46,615名 (161.9名)	40,927名 (144.6名)	(ア) マルチメディアライブラリー [インターネット利用者数(延べ)]	7,505名	9,744名	(イ) テレビ・ビデオ	165名	233名	(ウ) 図書資料コーナー [貸し出し図書数(延べ)]	5,157冊	6,208冊	イ 活動支援室 [貸しロッカー利用団体数] [レターケース利用団体数] [共用部分利用団体数] [共用部分利用時間]	14団体 15団体 109団体 延 313.5時間	13団体 13団体 154団体 延613.時間	ウ 交流ギャラリー [年間稼働率] [利用件数]	89.8% 30件	89.7% 12件
	施設名	22年度	21年度																			
	ア 国際情報センター [利用者数] (一日平均)	46,615名 (161.9名)	40,927名 (144.6名)																			
	(ア) マルチメディアライブラリー [インターネット利用者数(延べ)]	7,505名	9,744名																			
(イ) テレビ・ビデオ	165名	233名																				
(ウ) 図書資料コーナー [貸し出し図書数(延べ)]	5,157冊	6,208冊																				
イ 活動支援室 [貸しロッカー利用団体数] [レターケース利用団体数] [共用部分利用団体数] [共用部分利用時間]	14団体 15団体 109団体 延 313.5時間	13団体 13団体 154団体 延613.時間																				
ウ 交流ギャラリー [年間稼働率] [利用件数]	89.8% 30件	89.7% 12件																				
評価	<p>協会設立20周年事業の展開や交流ギャラリーでの日本語講座の開催で利用者数は前年度を上回り、多文化共生社会実現のための県民参加を促進する効果的な情報提供に繋がった。</p> <p>なお、活動支援室は、「海外移住と文化の交流センター」の整備に伴い、同センターがNGO活動拠点機能を担うこととなったため、今年度限りで廃止し、作業スペース等のみ引き続き便宜供与することとした。</p>																					

② 海外事務所の運営

【実施状況】

海外における本県企業の販路拡大、海外展開支援や外資系企業の誘致等の経済分野をはじめ、兵庫の魅力・観光PRや文化交流を推進するため、兵庫県ワシントン州事務所、西オーストラリア州・兵庫文化交流センター、兵庫県パリ事務所、兵庫県ブラジル事務所を運営した。

ア 経済活動への支援

海外の経済情報などを収集、分析の上、県内織物を素材にしたファッションショーの開催や現地見本市への出展等を通じ、県内企業の販路拡大・海外進出を支援したほか、海外企業や海外政府関係者などに対して、会議の開催や面談など、様々な機会を捉えて誘致を促進した。

イ 兵庫の魅力・観光PRの促進

ファムトリップの実施や学生等によるスタディツアーの受入など、海外事務所の活動を通じて来県促進、本県PRに努めた。

ウ 日本語、日本文化の紹介

海外事務所において、現地での日本語教育を支援し、兵庫県の文化をはじめ広く日本文化を紹介することで、兵庫県への理解を促進した。

【事業評価】

実績	経済活動数 151件 (計画 150件 前年度 113件)
評価	本県企業の海外展開支援や外資系企業の本県への誘致促進のための情報収集、発信、兵庫県観光情報PR、教育交流支援等により、本県経済活性化、外客誘致促進、青少年・県民の国際理解促進の一助となった。今後は、県民の理解を深めるため広報活動にも力を入れるとともに、経済・観光等分野に重点をおき、一層の活性化につなげる必要がある。

③ パラナ州との友好提携40周年ひょうご県民交流団の派遣

【新規】【記念】

【実施状況】

兵庫県とパラナ州との友好提携40周年及びブラジル・アルゼンチン兵庫県人会創立50周年を記念した南米兵庫県民交流団を実施。現地で催される記念式典等への参加を通じ、パラナ州民や県人会関係者との草の根交流を深め、友好を促進した。

- ・時期 平成22年11月16日～11月28日
- ・内容 兵庫県・パラナ州友好提携40周年記念式典及びレセプション
ブラジル兵庫県人会創立50周年記念式典
アルゼンチン兵庫県人会創立50周年記念式典



【事業評価】

実績	参加人員 29名 (計画 30名 前年度 12名<ハバロフスク地方>)
評価	ほぼ計画通りの参加者数確保を達成し、現地の方々等との積極的な交流で国際理解を深めるとともに、両県州の民間レベルの交流推進に貢献した。

④ 南米兵庫県人会との交流

【新規】【記念】

【実施状況】

ブラジル及びアルゼンチンで創立されている兵庫県人会が、共に50周年の節目を迎えたことから、この開催を支援。現地では、ひょうご県民交流団団員らがこれに参加し、日系移民達との草の根レベルでの交流を深めた。

- ・ブラジル兵庫県人会創立50周年記念式典

日 時：平成22年11月21日 10時～14時半

場 所：北海道協会会館（サンパウロ市内）

参加者：約300名

- ・アルゼンチン兵庫県人会創立50周年記念式典

日 時：平成22年11月24日 19時半～22時半

場 所：エル・ビエッオ・アルマセン（ブエノスアイレス市内）

参加者：約100名

【事業評価】

実 績	参加人員 400名（計画 400名）
評 価	遠く離れて暮らす兵庫県出身の日系人達が主催する記念行事を支援し、現地で交流し合う場を提供することで、県民の国際理解推進に繋げる有効な機会とした。

⑤ 海南省との友好提携20周年ひょうご県民交流団への参加

【新規】【記念】

【実施状況】

中国・海南省との友好提携20周年を記念して、県民交流団に協会幹部職員を派遣し、同省省民との交流や記念式典に参加するなど、両県省民間での草の根交流を深めた。

- ・時 期 平成22年8月24日～8月27日
- ・参加者 町村会団6名 教育交流団3名 ビジネスミッション12名、生け花交流団4名、国際交流協会1名
- ・内 容 兵庫県・海南省友好提携20周年記念式典・レセプション

【事業評価】

実 績	参加人員 26名（国際交流協会1名）
評 価	友好提携20周年を迎えた海南省での式典に、協会幹部職員を派遣し、今後の両県省の友好交流を推進した。

⑥ 広東省青少年芸術訪問団の受入

【新規】

【実施状況】

広東省との青少年友好交流を一層促進させるため、広東省青少年交流訪問団を受入れ、「兵庫県・広東省青少年交流会」を開催し、県内各校の児童・生徒との草の根交流を推進した。

- ・時 期 平成23年1月29日
- ・参加人数 約250名（日本側・中国側あわせて）
- ・内 容 中国側からは少数民族の舞踊や独唱、日本側からは人形浄瑠璃、中国語での合唱等様々な演目が披露された。
記念品の交換、記念証書の授与

【事業評価】

実 績	訪日人員 150名（計画 150名 前年度 240名）
評 価	兵庫県・広東省双方の児童・生徒が互いの文化に対する理解を深め、次世代の両県省、ひいては日中両国の友好交流の担い手育成に貢献した。

⑦ 広東省民訪問団の受入

【実施状況】

広東省との友好交流を一層促進させるため、広東省からの省民訪問団を受入れた。

- ・ 時 期 平成22年6月22日～6月28日
(ただし、県内滞在は6月23日～24日)
- ・ 内 容 歓迎セレモニー

【事業評価】

実 績	訪日人員 83名 (計画 100名 前年度 86名)
評 価	友好提携先の広東省の一般市民に兵庫県を知らしめる絶好の機会であり、両県省民の相互理解促進の一助となった。 今後も草の根交流の機会を活かして、兵庫県の魅力をさらに理解してもらえるようプログラムの充実を図る必要がある。

⑧ ひょうご国際プラザ登録ボランティア・ホストファミリー事業の実施

ア ひょうご国際プラザ登録ボランティアとの協働

【実施状況】

ひょうご国際プラザ登録ボランティアへボランティア活動情報を提供し、国際交流ボランティアとしての活動の場を提供することにより、県民の国際交流活動の活性化を図った。

【事業評価】

実 績	登録者数 39名 (H23.3月) 22年度参加者数 2名
評 価	ひょうご国際プラザでのボランティア活動機会、翻訳や通訳等一時的なボランティアニーズの減少に伴い、今年度をもって登録ボランティア制度を終了することとした。

イ ホームステイの促進

【実施状況】

ボランティアホストファミリー登録制度により、ホームステイ受入の実践を通じた国際交流を促進した。

- ・ 登録家庭数 134家庭 (H23.5月)

【事業評価】

実 績	受入実績 148名 (83家庭) (前年度 37名(24家庭))
評 価	受け入れ家庭数は昨年度を大きく上回った。アンケート等によると、「異文化交流ができた。」「他の国について深く知ることができた。」という声が寄せられ、受け入れ後も交流が続いている家庭があるなど、草の根の国際交流が推進された。

⑨ 訪日教育旅行の誘致促進・学校交流支援

【実施状況】

若年層の交流拡大によるリピーターや兵庫のファンづくり、国際理解教育の推進を目指し、訪日教育旅行における学校交流等の受入を県内において促進した。



ア 学校交流コーディネーターによる訪日教育旅行にかかる学校交流の受入調整

(参考：21年度には新型インフルエンザの影響で、訪日数は激減したが、22年度になり回復基調にあったものの、3月に発生した東日本大震災の影響によりキャンセルが続出し、再び激減した。)

イ 教育委員会・学校・地域等における受入体制の推進

5～6月にかけて、各地域の教育事務所・教育委員会を訪問し、訪日教育旅行に係る学校交流への理解啓発に積極的に取り組んだ。

【事業評価】

実 績	訪日人員 34校 1,286名 (前年度 21校 1,094名)
評 価	学校交流アンケート調査結果では、受入準備段階から生徒が自主的に取り組み、交流の場では、異文化理解および自国の文化と伝統に対する生徒の理解が進むなど、受入を通して生徒の内面の成長を感じたとの回答が多数寄せられており、学校現場における国際理解教育推進の一助となった。なお、東日本大震災の影響で自粛傾向が出たため、コーディネーターを中心に、風評被害の払拭と誘客促進の強化を進める。

⑩ 友の会事業の推進

【記念】

【実施状況】

県民が主体となった草の根の国際交流活動を支援し、国際交流の良き理解者の輪を広げるため、友の会を運営した。

ア 「交流の集い」の開催

友の会会員が参画と協働を基本に、兵庫県の各地域の文化や、外国の社会や文化芸術を学びながら、外国人県民や外国人の団体と交流を図る「交流の集い」を開催した。

- ・時 期 平成23年2月15日
- ・場 所 ホテルオークラ神戸

イ 食文化交流教室の開催

各国料理を楽しみながら、食文化の講話を聞いて、文化や伝統についての理解を深めるとともに、会員相互のネットワークを広げるため、食文化交流教室を3回開催した。

ウ バスツアー

兵庫県の歴史、文化を学ぶと共に外国人県民との交流を図ることを目的に、バスツアーを実施した。

- ・時 期 平成22年11月6日
- ・場 所 室津海駅館、うすくち龍野醤油資料館、姫路市埋蔵文化財センター他

【事業評価】

実 績	(ア) 交流の集い 参加人員 187名、うち友の会73名 (前年度 134名、うち友の会62名) (イ) 食文化 参加人員 112名、うち友の会79名 (計画 115名 前年度 74名、うち友の会46名) (ウ) バスツアー 参加人員 32名、うち友の会17名 (計画 30名 前年度 27名、うち友の会14名)
評 価	昨年に比べ会員参加者数が延べ47名増加した。また、会員特典の付与など工夫を凝らした結果、会員数が過去11年間続いた減少傾向に対して、初めて増加に転じた。今後も引き続き、会員数拡大に向けた継続的な取組を必要とする。

⑪ 県内外国人等の視点による兵庫の資源発掘事業

【実施状況】

県内在住外国人や留学生等が持つ外国人の視点からの兵庫の観光資源を発掘するとともに、インターネットなどを通じて、広く県内外の外国人に対して兵庫

県の観光情報を発信できる態勢を整えた。

ア ロコミ情報の収集

中国、韓国出身の留学生や旅行者に対する聞き込み調査を実施し、外国人からみた兵庫県の観光資源を調査することで、これまで日本人からの視点では埋もれていた魅力ある観光資源の発掘に努めた。

イ 県内在住外国人が持つ兵庫の観光やグルメ情報などをもとに、これらを活用した観光のための冊子（中国語）を、旅行業者の協力のもと、日本国内の空港や駅に配布して、兵庫をPRした。

また、韓国語版のWEBサイト（ブログ）の作成に先立ち、このサイトを紹介する冊子を作製した。

【事業評価】

実績	冊子（中国語版）の配布：前年度継続、冊子（韓国語版）の作成 ウェブサイトの作成（英語版、韓国語版）
評価	インターネットで旅行情報を収集する英語圏の各国及び韓国人に対してロコミ情報が発信できるよう、ブログサイトでの情報提供を開始した。外国人の観光地に関する関心動向を把握する上で有効な手段として期待できる。最新の情報を適宜取り入れて充実、更新し、魅力あるものにしていく必要がある。

(2) 知的交流の推進

① 兵庫国際サマースクール（アジア若者塾）の実施

【実施状況】

アジア・太平洋地域共通の課題等について同地域の若者が一堂に会し、学習討議を行うことにより、国際舞台で活躍できる有為な人材の育成に貢献するとともに、内向き志向にあるとされる現代の若い国内学生にアジア太平洋地域の学生と寝食をともにしながら交流する機会を提供し、多文化共生の担い手としての認識を深めてもらう機会とした。

- ・実施期間 2週間（平成22年8月9日～8月22日）
- ・実施場所 JICA兵庫国際センター



【事業評価】

実績	参加人員 29名（計画 30名 前年度 29名）
評価	県内学生にアジア太平洋地域の学生との合宿による研修機会を提供することにより、同じ地域の一員としての課題認識を深めるなど、多文化共生社会を担うべき人材づくりと国内外の青年交流に一定の役割を果たしてきたことから、平成22年度末で事業を廃止した。

② 孫中山記念館調査研究・情報の発信

【実施状況】

近代中国に対する理解を深め、中国とのさらなる交流を促進することを目的に、賛助会員として、同記念館の運営に財政的な支援を行った。

③ 国際協力セミナー等の開催 [再掲]

【記念】

④ 日米教員の交流

【実施状況】

日米教員の相互交流を促進し、教育分野における国際理解教育を支援するため、ワシントン州教員兵庫県訪問団を受け入れた。

- ・対象 15名（兵庫県ワシントン州事務所職員1名を含む）
- ・時期 平成22年6月24日～7月1日
- ・主な活動 学校訪問、施設見学、ホームステイ等

（21年度：兵庫県内教員12名のワシントン州訪問を支援）

【事業評価】

実績	参加人員 15名（計画 15名 前年度 16名）
評価	アンケート調査では、参加団員から県内の小・中・高3校の訪問や、前年度県教員ワ州訪問団との意見交換会を通じて、日本の教育現場や社会について理解が深まったこと、また学校訪問受入校からは、生徒の国際理解促進の一助となり、今後も交流継続を続けていきたいとの評価を受けている。

⑤ オックスブリッジ英語サマーキャンプの実施 [再掲]

⑥ 国際会議開催への助成

【実施状況】

県内への国際会議誘致を促進するため、会議開催費の一部を助成した。

- ・助成件数 22年度 18団体、助成額 13,527千円

【事業評価】

実績	助成件数 18団体（前年度 19団体）
評価	過去5年間の助成件数は毎年ほぼ18団体であり、国際会議の県内誘致を推進する上で有力な助成制度として機能している。今後、誘致件数を増やすためのインセンティブとして、活用を促進していくことが課題である。そのため、国際機関、団体等へのPR強化を進める。

⑦ 国際会議場の活性化支援

【実施状況】

淡路夢舞台国際会議場の活性化を図るため、国際会議場を会場に外国人児童も参加し、親子がふれあうイベントを共催の形式で開催した。

- ・こころづくり絵画教室 平成22年4月24日、10月24日開催

【事業評価】

実績	参加人員 1,172名（前年度 406名 1回のみ開催）
評価	毎回県内から外国人親子を含む多数の参加があり、淡路夢舞台の活性化に繋がると共に、草の根レベルでの国際交流推進向上の一助となっている。

(3) 国際理解の促進

① 民間国際交流事業への助成

【実施状況】

市民レベルの国際交流活動を育成・奨励するため、NGO等の非営利団体が行う国際交流事業に対して助成した。

- ・助成額 事業費の1/2で最高限度額10万円
- ・助成対象 兵庫県内で国際交流活動に継続的に取り組む民間の非営利団体が行う国際交流事業
- ・助成実績 (21年度：18団体、助成交付額1,234千円)
(20年度：14団体、助成交付額1,116千円)

【事業評価】

実績	19団体、助成交付額 1,656千円 (前年度 18団体、助成交付額1,234千円)
評価	外国人県民を対象のフェスティバルや外国人児童生徒による音楽交流会、留学生を対象とした日本の伝統文化体験等、県内各地で多様な国際交流活動を推進する一助となっている。

② 国際関係団体との情報ネットワーク事業の実施

【実施状況】

県下の国際交流・協力団体の情報をホームページにおいて提供するとともに、団体間の情報交換のためのメーリングリストを提供した。

【事業評価】

実績	国際交流団体メーリングリスト登録者数 133件 (H23.3月末) 情報発信数 131件 (H22年度 465~595号)
評価	メーリングリストにより、各団体が活動内容や募集情報を随時発信しており、団体間の情報共有・交換が進んだ。

③ 市町国際交流団体等との連携

【実施状況】

県内の市町国際交流団体が情報交換等を通じて、連携・協力して活動を推進していくため、「兵庫県・市町国際交流団体連絡協議会」を開催し、共通の課題について討議した。

- ・テーマ 多文化共生と国際交流団体のあり方

【事業評価】

実績	加入団体 県内市町国際交流団体 (37団体)
評価	講演及びグループ討論で共通の課題についての検討等を行うことにより、団体間の連携、情報共有が促進された。

④ 国際協力セミナー等の開催

【記念】

【実施状況】

開発途上国をめぐる諸問題や国際協力に対する県民の理解を深め、国際協力活動への参画を促すため、国際協力の専門家、県内NGOの活動家等を講師に招き、フォーラムやセミナーを開催した。

ア 第1回

- ・時期 平成22年6月12日
- ・場所 JICA兵庫
- ・内容 フォーラム
「『命を救う 健康を守る～』～医療分野における国際支援の現場から」
- ・参加人数 90名

イ 第2回

- ・時期 平成23年2月6日
- ・場所 JICA兵庫

- ・内 容 フォーラム
「『中米BOSAIプロジェクト』～世界に伝える兵庫の知恵～」
- ・参加人数 60名

【事業評価】

実 績	実施回数 2回、計150名 (前年度2回 計121名)
評 価	参加者アンケートによると、「貴重な体験談を聞いて良い刺激になった。」「国際協力に携わりたいという思いが強くなった。」などの声が寄せられており、県民の国際協力に関する理解を深めることができた。

⑤ 友の会事業の推進 [再掲] 【記念】

⑥ 日米教員の交流 [再掲]

⑦ オックスブリッジ英語サマーキャンプの実施

【実施状況】

オックスフォード大学及びケンブリッジ大学の学生を受入れ、県内大学・高校等において、英会話授業や国際交流事業を実施した。

- ・実施期間 平成22年7月16日～8月23日
- ・受入学生数 9名



【事業評価】

実 績	参加人員 延べ188名 (計画 210名 前年度 延べ182名)
評 価	県内受入校のアンケート調査では、同年代の学生との交流で、異文化交流への理解促進につながったと回答があったほか、学生自らが進んで応対、交流を深めるなど、学生の意識啓発の一助となった。また、県民との草の根交流の実施により、県民の国際理解の一助となった。

⑧ 海外移住と文化の交流センターへの支援

【実施状況】

「神戸市立海外移住と文化の交流センター」が外国人県民による自国文化の発信等の活動拠点となるよう支援するため、NPO団体等との協働でフェスティバル、セミナー等のイベントを実施した。

ア 多文化交流フェスティバル

- a ブラジルと日本の子どもの絵の交流展
 - ・時 期 平成22年10月9日～30日
 - ・内 容 ブラジルと日本の子ども達が母国を紹介する絵92枚を展示
- b サロン・カーナヴァウ
 - ・時 期 平成22年3月6日
 - ・内 容 ブラジルサンバとカーナヴァウダンス・歌・料理紹介等

イ 多文化交流子どもサミット

- ・時 期 平成23年1月30日
- ・内 容 ワークショップ、各国紹介等



【事業評価】

実績	ア)多文化フェスティバル a ブラジルと日本の子どもの絵の交流展 参加者約 200 名 b サロン・カーナヴァー 参加者約 200 名 イ)多文化交流こどもサミット 参加者 122 名
評価	各イベントは、地域住民も多く参加するとともに、様々な国の子どもたちと日本の子どもたちの交流により、次世代を担う世代の相互理解、多文化理解促進の一助となった。

⑨ 広報紙（Come HIA）の発行

【実施状況】

国際交流・協力に関する各種情報及び本協会の活動状況等を掲載した広報紙を発行し、県民の国際感覚の醸成及び国際理解の促進を図った。

- ・発行回数 年2回（8月、12月）
- ・発行部数 各4,000部
- ・仕様様 A4版カラー6ページ

【事業評価】

評価	「兵庫の国際化度 check」「HIA 設立 20 周年記念事業」を特集し、国際感覚の啓蒙や国際協力、協会事業への理解を深めた。
----	--

⑩ 兵庫 EU 協会への支援

【記念】

【実施状況】

EU 諸国と日本国及び兵庫県との相互理解を深めるため、兵庫 EU 協会の活動を支援した。

- ・会員数 法人会員 35 団体、個人会員 23 名（22 年度末）

【事業評価】

実績	シンポジウム等のイベント実施数 15 回（昨年度実績 7 回）
評価	EU 協会創立 20 周年を記念して各種のイベントを実施した。記念合同シンポジウムには約 200 人が参加し、EU 文化の啓発・理解に貢献した。

⑪ 日本国際連合協会兵庫県本部への支援

【実施状況】

世界連帯の観念を普及し県民運動としての国際連合の目的達成に協力することにより、世界平和の確立と国際問題の解決に寄与するため、国連協会兵庫県本部の活動を支援した。

- ・会員数 77 名

【事業評価】

実績	中学生の作文コンテスト応募 166 点、高校生の主張コンクール応募 33 点、青少年向けセミナー参加者 35 名、映画上映会参加者 82 名、国連 UNHCR 協会への募金活動への協力 等
評価	国際連合協会兵庫県本部の活動への支援として上記事業等を実施することで、青少年を含む県民の国際連合への関心と理解の増進に貢献した。

3 人づくりへの貢献

(1) 外国人留学生の支援

① 私費外国人留学生奨学金の支給

【実施状況】

留学生の生活の安定を図り、学習活動を支援するため、私費外国人留学生に対し、奨学金を支給した。

- ・支給額 月額3万円
- ・支給期間 1年間

【事業評価】

実績	支給人員 200名 (計画 200名 前年度 200名)
評価	支給人員、支給金額からみた奨学金の規模は全国一の制度となっている。各学生の学業実績報告書によると、「学業に専念できた。」、「経済的な安定により学業を継続できた。」などの声が寄せられており、学位取得、大学院進学、学会・コンテストの賞獲得など、学業支援の成果につながった。

② 留学生住宅の運営

【実施状況】

住居の確保に困窮している私費外国人留学生に対し、留学生住宅を提供した。

- ・所在地 神戸市垂水区 (兵庫県住宅供給公社独身寮)
- ・定員 8名

【事業評価】

実績	入居者 8名。
評価	建物の老朽化により、所有者の兵庫県住宅供給公社が22年度末で廃止を決定した。引き続き在学する学生に対しては相談に応じ、円滑に転居を終えた。

③ 留学生住宅機関保証推進システムの推進

【実施状況】

留学生の民間住宅への円滑な入居を進めるため、大学等が賃貸借契約の保証人となる機関保証の実施に当たって必要な資金を貸し付けた。

- ・貸付先 留学生版安全・安心ネット連絡会
- ・貸付金額 100万円

【事業評価】

実績	支給実績 なし
評価	本システムは、各大学が安心して賃貸借契約の保証人となるよう、セーフティネットの役割を果たし、留学生が容易に住宅を確保できた。

④ ビジネス日本語講座の開催

【実施状況】

県内大学に在籍する留学生を対象としたビジネス日本語講座の運営を行い、日本とアジアを中心とする諸外国との架け橋となる高度専門人材を育成した (経済産業省「アジア人材資金構想 高度実践留学生育成事業」委託事業)。

- ・時期 平成22年4月～12月

【事業評価】

実績	参加人数 35 名（前年度実績 78 名）
評価	実際の就職活動に役立つビジネス日本語を少人数のクラスで丁寧な指導ができた結果、参加学生 35 名中、25 名（71.4%）が企業から内定を受けた。受講者からの評価は高かったが、国の事業仕分けの結果、廃止事業となった。

(2) 人材育成

① ひょうご海外研修員の受入

【実施状況】

兵庫県の友好州省をはじめとする諸外国から優秀な青年を研修員として受け入れ、課題解決型の研修を実施した。

- ・ 受 入 ハバロフスク地方 1 名、ブラジル 2 名、コスタリカ 1 名
- ・ 内 容

専門研修

ブラジル・日系：日本鍼灸の技術習得
(89日間)

コスタリカ：臍帯血バンク技術の習得
(87日間)

ハバロフスク州：行政実務、日ロ貿易実務
(87日間)

ブラジル・パラナ州：水族館管理運営
(89日間)

- ・ 受 入 先 兵庫県立東洋医学研究所、(株)神戸デジタル・ラボ、兵庫医科大学、石光商事(株)、須磨海浜水族園等



【事業評価】

実績	受入 4 名（前年度 3 名）
評価	各友好姉妹州省等から示されたそれぞれの課題の解決に役立つ実地研修を実施することができ、技術協力と相互理解が進んだ。

② 兵庫国際サマースクール（アジア若者塾）の実施 [再掲]

③ 青年研修の実施

【実施状況】

海外の青年の人材育成や日本人との相互理解、交流の促進を目的に、JICAが実施する青年研修事業を受託し、兵庫県の得意とする分野での技術協力を通じて、開発途上国の国づくりを担う人材の育成に協力した。

ア 日本語コース

- ・ 研修期間 平成22年11月9日～11月26日の18日間（うち、本県受入13日間）
- ・ 研修分野 日本語教育
- ・ 受入人数 8名
- ・ 主な内容 日本の日本語教育の体制・教授手法の概要、日本語学校視察、関係者との意見交換等

イ 職業訓練教育コース 【新規】

- ・ 研修期間 平成23年1月16日～2月2日の18日間（うち、本県受入13日間）
- ・ 研修分野 職業訓練教育（ヨルダン）
- ・ 受入人数 13名
- ・ 主な内容 日本の職業訓練教育の体制・教授手法の概要、職業訓練校・企業のOJT現場視察、関係者との意見交換等

【事業評価】

実績	実施回数 2 回（受入人数21名）（計画 2 回(受入人数25名)） 前年度 1 回（受入人数10名）
評価	研修修了時のアンケートによると、「日本社会の規律を重んじる文化や人材育成に対する真摯な取組みに感銘を受けた。」という声が寄せられるなど、日本に関する理解が深まるとともに、日本語教育・職業訓練教育の技術向上の一助となった。 また、視察・交流先の県民の国際理解の促進にもつながった。

④ 青少年防災協カトルコ友愛基金による支援

【新規】 【記念】

【実施状況】

ひょうごトルコ友愛基金支援事業の一環として、兵庫県の青少年による国際協力交流団を結成し、トルコへ派遣した。交流団はトルコの実情に合わせた防災教育を紹介するとともに、学生等との交流を行った。

- ・時期 平成22年8月24日～8月31日（8日間）
- ・派遣者 神戸学院大学防災・社会貢献ユニット
3 回生 8 名、指導教員 1 名、コーディネーター 1 名
- ・内容 Natural Disaster Youth Summit 2010への参加、ワークショップの実施、土日基金文化センター、トルコ赤新月社防災対策センター等の訪問



【事業評価】

実績	派遣団員10名・8日間
評価	サミットでは17カ国・地域約300名の若者が防災の知識を深め、相互交流を図ることができた。また、兵庫県の先導的な防災教育活動を国際的に周知することができた。

⑤ セーヌ・エ・マルヌ県との人物交流の促進

【実施状況】

フランスとの交流事業の一環として、セーヌ・エ・マルヌ県との人物交流を行い、両県民間の相互理解と友好関係を促進した。

ア 企業研修生の受入

- ・受入人数 1 名
- ・期間 平成22年7月9日～10月6日（90日間）
- ・受入先 ㈱神戸デジタル・ラボ

イ 日本文化教師の派遣

- ・期間 平成22年10月～平成23年6月
- ・派遣先 セーヌ・エ・マルヌ県内の情報通信高等教育大学及びセーヌ・エ・マルヌ県経済振興公社ほか
- ・派遣人数 1 名

【事業評価】

実績	派遣・受入各1名（前年度各1名）
評価	受け入れ企業での研修活動や、兵庫県から派遣する日本文化教師によるセーヌ・エ・マルヌ県における兵庫県観光情報等の発信が両県の相互理解を促進した。交流20周年を契機として、相互の課題解決により資するよう、制度の充実を図る。

≪公益法人化・設立 20 周年記念事業の実施≫

① 記念シンポジウムの開催

【新規】【記念】

【実施状況】

協会設立20周年及び協会の公益法人化への移行を記念した基調講演、パネルディスカッションの実施により、県民とともにこれからの多文化共生社会について考える機会とした。

開催時期：平成23年2月15日

開催場所：ホテルオークラ神戸

内 容：基調講演「地球市民社会に生きるとは」

パネルディスカッション「兵庫・神戸からアジアの多文化共生社会を考える」



【事業評価】

実 績	参加者数：680名
評 価	兵庫・神戸の地を地球市民の視点から見つめるとともに、新しい時代の社会デザインについて考察を深め、兵庫・神戸からアジア多文化共生社会への道筋を模索できた。

② 地域リレーセミナーの開催

【新規】【記念】

【実施状況】

県内各地で、地球市民の視点による多文化共生、国際交流、国際協力に関して県民とともに考えるセミナーを、地域の草の根運動の中核である市町国際交流団体等との共催により展開した。

・リレーセミナーin淡路 開催時期：10/31

(テーマ) 阪神淡路発国際貢献

・リレーセミナーin但馬 開催時期：11/27

(テーマ) 青い眼の雲水が見た日本、但馬

・リレーセミナーin西宮 開催時期：2/27

(テーマ) 外国につながる子どもたちが健やかに育つ環境づくりを目指して

【事業評価】

実 績	総参加者数：300名
評 価	県内各地でそれぞれの地域での課題やトピックをテーマとして、リレーセミナーを開催することで、課題等に対する啓発がなされ、参加者の理解を深めることが出来た。

③ 協会事業等功労者の顕彰

【新規】【記念】

【実施状況】

兵庫における草の根の国際交流・協力の輪を広げることを目的に、協会の活動を長年にわたり支援、協力した功績著しい個人を表彰した。

・表彰日：平成23年2月15日

・被表彰者：26名

④ 設立20周年記念誌の発行

【新規】【記念】

【実施状況】

現在実施の協会事業について紹介するとともに、これまでの協会の歩みや取り組み、今後の方向について掲載した記念誌を発行し、関係団体、国際交流団体等に広く配布した。

- ・発行部数 1, 200部
- ・仕様 A4版100ページ（うちカラー16ページ）
- ・発行時期 3月

⑤ 関連事業の実施（多文化共生を考える研修会等）[再掲]

【新規】【記念】